



『稼ぐ』まちづくり

鈴木 保博

(能代市地域おこし協力隊)

1 協力隊になる前

2021年2月に埼玉県熊谷市から初めて能代市に来て、翌3月から協力隊として活動している鈴木保博と申します。それ以前は「ヤフー JAPAN」で「Yahoo!ショッピング」のシステム企画や営業技術を担当しておりました。

また、兼務として2013年から地域の活性化とIT人材育成を目的に、全国の高校、専門学校、大学、自治体、刑務所等でネット通販セミナーを開催し、全国の名産品をYahoo!ショッピングで販売するお手伝いをしてきました。

ネット通販セミナーでは、その地域に2～3日滞在し名産品を売るためのお話をして、それが終わればまた別の地域に行って同じことを話すということを繰り返し、そんな自分を実践が伴わない「能書き垂れ」だと感じておりました。できればその地域に住み、地域の人と一緒に名産品をネットで販売し、ネット通販が本当に地域活性化に役立つかどうか試してみたいと強く思うようになり、2020年11月に転職を決意しました。また、どうせ行くなら「行ったこともない、知り合いも1人もいない場所」と覚悟を決め、色々調べたところ、地域おこし協力隊という制度があること、秋田県能代市で募集をしており、締め切りが1週間後だということがわかり、同年12月下旬に応募したところ、運良く採用されました。妻と、既に社会人として独立していた子供たちには「最後のわがままだと思っ

て秋田に行かせてほしい」と頭を下げ、2021

年2月下旬、妻と一緒に埼玉から能代に来て、翌3月から協力隊1年目がスタートしました。

2 協力隊1年目

能代に来てまず初めにやったことは、商工会議所HPから能代の名産品取り扱い事業者様を調べ、すべて個別訪問しながらYahoo!ショッピングでのネット販売を提案したことです。

Yahoo!ショッピングは他の大手ショッピングモールと異なり、初期設定料や月々のテナント料などの固定費が無料で、注文金額の7%前後を手数料として支払うことで店舗運営できるということを訴えても、なかなかネット通販に挑戦する事業者様はいませんでした。

また、これと並行して1回90分×6回のネット通販セミナーを地元の商店街様向けに開催し、セミナー終了時には5店舗がYahoo!ショッピングで新規オープンしました。

これを皮切りに、ふるさと納税の特産品事業者向けや商工会議所青年部向けにもセミナーを開催し、「売れる検索キーワード」や「売れる商品写真の撮り方」等の実践的な内容を徹底的にお話しました。

さらに、能代市内にある3つの高校に飛び込み営業をして、ネット通販による総合学習の授業も提案しました。お世辞にも人相が良いとは言えない私と3校とも会ってくださり、うち能代科学技術高校からは、生徒が栽培・収穫したあきたこまちをネット通販する授業を2年生と

3年生向けに開催して欲しいと依頼をいただきました。1回80分×8回×2学年分の授業を行い、会計年度の都合上2月末までしか販売できませんでしたが、販売期間2か月半で約42,800円の売上を達成しました。

協力隊1年目の終盤には、事業者様の方からネット通販したいとお声がけいただくようになり、参加事業者数19事業者、月間売上高50万円、初年度の売上高は464万円となりました。これは県外のお客様から獲得した「外貨」であり、補助金に頼らない「自走」した結果だと考えております。



(北羽新報の紹介記事)

3 協力隊2年目

能代に1年間住んだことや、日課となっている早朝ランニングで市内あちこちを走り回ったことで、素晴らしい自然や感動する風景が能代にはたくさんあると実感しました。

また、美味しいきりたんぼ鍋や山菜料理、チェーンソーによるスウェーデントーチ制作、炭焼体験など、文化面でも突出した特徴があることにも気づきました。

そこで、1年目の「モノ」販売から、市内での経験や体験を販売する「コト」販売の検討にも着手しました。世間ではテレワーク化が進み、田舎暮らしや田舎体験が多くのメディアでも取

り上げられている世の中の流れに乗ってやろう、という魂胆です。

雪積もる里山をスノーシューで歩いたり、トレッキングしたり、山菜やヒメダケを採ったり、ハタハタ釣りをしたりと、この歳になって初めての体験にワクワク感が抑えられませんでした。ほとんど雪が降らない埼玉から来た私にとって雪が積もった能代は、まさに「♪犬も喜び庭駆け回る」の心境で、これらの体験の一部は既に商品化してネット販売しております。

また、高校での授業は能代科学技術高校に続き、能代松陽高校の情報ビジネス科の3年生も加わりました。能代松陽高校での授業は名産品を取り扱っている市内の事業者様にご協力いただき、能代の名産品をネットで販売することにしました。

まず、ネット通販やマーケティング等の初歩を勉強してから、名産品について事業者様に取材をします。そして、特徴や製造・生産方法を理解したうえで、自分たちで商品写真を撮り、どのようにPRしたら商品が売れるかをグループ内で議論してから商品ページ制作を進めるといった内容の授業に、生徒の皆さんはとても興奮していました。



(先生と生徒が一緒になって
元祖檜山納豆社長(右上)から説明を受ける)

2校での授業は、両校が競い合ってネット通販に挑戦するため、「能代ネット通販甲子園」と

題して昨年9月から授業を開始し12月中旬から販売を始めたところ、本年2月末時点での販売実績は

能代科学技術高校 99,800円

能代松陽高校 110,890円

と大健闘しました！

2校とも最後の授業では、成果発表会を実施して成果を称え合いました。特に能代松陽高校の成果発表会には、協力して下さった事業者様にも参加していただき、「高校生による能代経済界への挑戦状」と敢えて挑発的な副題にして大いに盛り上がりました。



(能代ネギを撮影する生徒)

能代松陽高校 ネット通販セミナー 成果発表会			
高校生による 能代経済界への挑戦状			
2023/1/25			
外貨の獲得元—ご注文主様の都道府県			
都道府県	外貨額	都道府県	外貨額
東京都	14,844円	北海道	5,400円
大阪府	12,780円	埼玉県	5,000円
神奈川県	12,744円	青森県	4,700円
千葉県	6,408円	福岡県	3,600円
岐阜県	6,372円	広島県	3,600円
茨城県	5,616円	新潟県	2,980円
静岡県	5,616円	秋田県	2,700円
山口県	5,470円	愛知県	1,000円
		合計	98,830円

販売実績 2022/12/7~2023/1/24	
商品名	売上額
きりたんぼ鍋	38,232円
比内地鶏	16,848円
あきたごまち	14,400円
しらかみ美人	10,800円
能代ネギ	8,450円
粗子の組み立てキット	6,000円
能代うどん	2,100円
榎山納豆	2,000円
合計	98,830円

(成果発表会)

また、高校生が制作した商品ページからご購入された全国のお客様より頂戴した「商品レビュー」には、励ましの言葉や、胸を打つお礼のことばなどがたくさん含まれ、これを読んだ高

校生も深い感動を覚え、通常の授業では経験できないようなことを学んだと思います。

2年目のネット通販による「外貨」獲得は予想以上の結果となり、2月末時点で、出店事業者数30、総売上が750万円を達成しました。



(Yahoo!ショッピング
「秋田からの贈りもの」)

4 協力隊3年目

これまでの2年間はネット通販による「外貨獲得」に注力し、「稼ぐこと」が何よりも雄弁であることもわかってきました。これからの協力隊最終年の3年目は、これまでの活動の拡充と、2024年2月の協力隊任期終了後の身の振り方を考えながらの活動となります。

高校での授業も2校とも継続することが決まっており、特に能代松陽高校の先生からは、授業開始を9月から4月に前倒し、「商品発送時に同梱する学校紹介パンフレット等も生徒に作らせる授業もしたい！」と前のめりのご提案をいただいております。

ところで、今の時代ほど「地方」や「地域」が注目されている時代はないと感じております。20年前のテレビ番組は主に、撮影スタジオ、大ホール、テレビ局などが番組の中心にありましたが、10~15年ほど前を境に大きなパラダイムシフトが起こり、今や芸能人が田舎の道を歩き、地方の名所を電動バイクや路線バスで走り、全

国各地の珍しいグルメが紹介され、山の中の一軒家での生活や、限界集落での生活を紹介します。番組が高視聴率を取るようになっていきます。YouTubeでも、首都圏での暮らしでは想像もつかないような田舎暮らしの様子やキャンプの動画が高再生数を稼ぎ出しています。

一方、かつて木材産業が栄え「東洋一の木都」と謳われた能代の現在は、木材製品の出荷額がこの10年間で180億円から50億円に激減し、経営者の高齢化や後継者不足等の課題も山積んでいます。

このような状況にあって、自分のやりたいことがどれだけできるかは全くわかりませんが、今後もインターネットを効果的に使っていろいろなことに挑戦し、そして何よりも秋田の生活を楽しまたいと思います。

海も山も川もあり、風も雪も雷もあり、熊も猿も鹿もいる秋田にしかない価値ある「モノ」や「コト」をさらに見出し、インターネットを効果的に活用しながら今のトレンドにうまく乗って、秋田や能代を全国に向けてPRして、全国から能代に「外貨」と「人」が集まり「稼ぐまちづくり」が継続できたら最高だと考えております。



(作業中にポーズ)

<担当者から一言>

能代市では平成26年からこれまでに19名の協力隊を採用し、現在10名の協力隊が活動しております（令和5年4月現在）。

各々が自分のスキルを存分に活かして、イベントの開催や情報の発信などを通じて活躍しております。市内の隊員同士が連携することはもちろん、他市町村の隊員と連携することもあり、確実に今までと違う新しい風が地域に起こっています。地域で今までうまく活用されていない資源や、まだ見つかっていなかった課題などに気づき、それらに対応した活動をしていくことが、地域の活性化につながっています。

今後も隊員・地域住民が一体となって活気ある地域を作っていけるよう努めてまいりますので、皆様には今後ともご支援いただければと思います。

(能代市企画部市民活力推進課 松森 翔)